

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校第3学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策
国語	学力調査の結果より、【A】の知識に関わる部分は「話すこと・聞くこと」以外は東京都や国の平均正答率を超えており、知識が概ね身についているといえる。一方で【B】の活用に関わる部分は全体的に平均値と同じ、もしくは下回っている。「意欲・関心・態度」は東京都、国と比較しても高く、授業には関心を持ち、主体的に取り組んではいるが、物事を関連付けたり比較して結論を導き出すなど、知識を活用して発展した考えを持っていないことが課題である。	「話すこと・聞くこと」については、話の論理的な展開や構成についての知識が定着していないため、発表原稿などを制作し、推敲を重ねてから発表を行ったり、司会原稿をもとにしてその場の話題にあった進め方を行うなど、様々な場面での活動を設定し、知識を定着させようとして実践していく。
社会	受験に向け、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。知識が身に付くことで、発展的な内容に興味を持つ生徒も増え、「なぜ」「どうして」と考えることができていく。社会的現象を実生活に当てはめ、自らのこととして捉えて考える力を身に付けさせたい。	特に公民的分野では、新聞記事やニュースの話題を使い、学習内容と社会の出来事との関連付けを行う。また、自分の考えを書かせる場面や、話し合いの場を設け、自分の意見をもつことや相手と意見を合わせ課題を解決していく過程を経験させていく。
数学	全体的にはとても意欲的に授業に取り組んでいて、基礎基本は身につけている生徒も多い。しかし、数学に対し、苦手意識をもっている生徒も多い。学力調査からも、知識、技能は身につけているが、見方・考え方が身につけていない生徒が多いことが分かった。また、正答率が2極化している傾向があることが分かった。	習熟度別少人数授業の利点を活かし、基礎的内容を重点的に行うクラスでは、仕組みを理解させつつ、反復練習の機会を多く与え、基礎基本の定着を図っていく。また、証明問題などでは、活発に意見を出し合ったり、生徒同士の意見交換や考察を大切に、考え方を整理していくことで苦手意識を取り除いていく。発展的内容を行うクラスでは、問題文の読み取りの指導にも力を入れていく。
理科	日常生活との関わりを継続的に意識させてきたことから、常に疑問を持って授業に取り組むことのできる生徒が多くなってきている。しかし、その場、その時の感情で質問することが多く、自分なりの考えを持って、思考・判断し、他人の意見を参考に、解決していくというプロセスまでには至っていない。基礎基本は身につけている生徒が多いが、深い考えや各分野の関連性や他教科とのつながりなどを結び付けることができず、「総合問題」や「説明する問題」などでは、苦手とする生徒も多く、理科だけでなく、文章の読み書きの力など、「国語」的な部分も足りないことがある。また、「計」など数学的な部分で、「嫌悪感」を持ってしまっている生徒が多い。	理科という教科の成り立ちから、常に日常生活のどのようなところのことを学習しているのか、などの意識付けを今後も行う。実験・観察だけでなく、映像や新聞記事なども活用し、「話し合い活動」から「自分の意見」を構築できるようにする。また、そのための「プレゼンカ」やレポートやプリントでの活字による文章能力などを細かく指導をする。授業では導入、復習の時間を設け、前回とのつながりや、他分野、他教科とのつながりを意識させ、計算問題や応用問題などのドリルも時間をかけていき、自ら解く力を養う。
音楽	どの単元でも意欲的に取り組み、活発に授業が行える。実技では、パート練習や班での練習で得意な生徒を中心に教え合いながら進めている。鑑賞では、聴き取ったことをどのように表したら良いか徐々に理解してきている生徒も増えてきたが、表現することを苦手とする生徒も少なくない。言語での表現活動は今後の課題である。	実技での表現の能力を伸ばしていくために、合唱などをとおして、自分たちで工夫をして曲を作り上げられるように助言をし指導していく。そのための楽語や記号もその都度教え、より良い表現ができるようにする。また、ICTレコーダー等を使用し録音するなどして客観的に自分たちの演奏を聴かせることで課題に気付かせる。言語活動としては、鑑賞で感じたことをレポートにまとめていく活動を継続して行う。
美術	・元気が積極性もあり、どんどん制作する生徒が多い。 ・コツコツ作業を継続することを苦手とする生徒に対する支援は必要。 ・ものの形や色彩をどう決定するかが消極的な生徒も多いので、自ら選別する仕方についても指導が必要である。 ・授業内でいかに鑑賞を取り入れるか。	・机間個別支援において、個々に応じた課題を的確に提示する。 ・黒板及び大型画面に作品の参考又は手順、目標とすべき表現などを常に提示し、いつの時点でも確認できるようにしておく。 ・PC室、図書室などを活用して鑑賞を多く取り入れる。又、教科書等を用いて授業内導入鑑賞も取り入れ、鑑賞の授業の充実を図る。
保健体育	体育分野については、関心が高く、意欲的に活動できる生徒が多い。各自が個人の目標を持ち、運動が苦手な生徒でも、自分で考え、課題に取り組む、解決しようとするのが課題である。保健分野では、健康と病気について理解し、生活の中で実践できる力をつける。	授業のなかで、生徒が自分達で考え、解決していく展開を進めていく。個人で目標設定をしたり、種目を選択することで、さらに意欲的に自分に合った授業の内容、進め方を考えていく。本年度もオリパラ教育に取り組み、幅広い視野を持つ生徒の育成に努める。体育分野、保健分野から、健康・安全に関して、深く追及する。
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着いた態度で取り組んでいる。少ない授業の中、課題を提出しない生徒もみられる。	【技術】PC室の利用による実習において課題への取り組みに対し、操作・しくみの理解に向け個々の進度に注視する。
	【家庭】授業に取り組む姿勢は意欲的であり、発言する生徒も多い。普段の生活で幼児と関わる機会は多くないため、具体的に想像したり考えたりすることが難しい。	【家庭】幼児の映像を見せたり、体験談を読んだりして具体的なイメージを持ちやすくする。幼児のおもちゃの製作を通して幼児の発達やそれに対する安全対策を考えていく。
外国語(英語)	全体的に授業では真面目に取り組む、ペアワークや音読練習など意欲的に活動するが、1・2年の基礎的な積み重ねが不十分で苦手意識をもっている生徒も多い。授業においては既習事項を振り返りつつ新しい文法事項を定着させている。またスピーキングテストや音読テスト等を定期的に取り入れて語彙を増やし、読解力をつけることが今後の課題である。	・復習事項の確認をしてから、新たな積み重ねを展開し例文を参考に自分の力で英語表現ができるようにする授業を心がける。 ・ペアワーク等でお互いに教え合い反復練習を行うことで、生徒たちが達成感をもてる授業を作る。 ・「読む・書く・聞く」の要素を入れることによって、その時間の授業のより一層の定着を図る。